

1. 本園の教育目標

「よく遊ぶ子」、「よく頑張る子」、「よく考える子」という三本柱を保育の中心に置き、主体的に活動できる子どもに育てる。

2. 2022年度 重点的に取り組む目標

- ・園の教育理念や全体的な計画に基づき就学前の育ちについて教職員間でもっと精査する（保育の計画性）
- ・本園の教育理念でもある慈愛の心をもって保育にあたり、のびのびとした保育環境を提供する（保育のあり方 幼児への対応）
- ・研修・保育について管理職に年1回以上は評価をもらう（資質や能力・適正）
- ・コロナ禍で来園数が少なくなっているが、子どもの発育について情報提供や講演会の案内をする（保護者への対応）
- ・淡路駅周辺工事の状況により園外活動のルートを随時再考（地域との関わり）
- ・園内で整備したリモート研修を受講できる環境をうまく活用して、研修の機会をできるだけ増やす（研修と研究）

3. 2022年度 評価項目の達成及び取り組み状況

保育の計画性	当園の保育理念に基づいて、子どもたちの今のすがたを尊重しながら、長期的な見通しをもって活動の内容や展開を考えられた。	A
保育のあり方 幼児への対応	園児の言葉にならない思いやサインを見逃さないように慈愛の心をもって保育を提供できた。	B
資質や能力・適正	日々の研鑽を自己評価アンケートで見える化し、管理職から評価を受けた	A
保護者への対応	子育ての中心は保護者であることをより強く意識できるように子育てを支援する講習を行った。	B
地域とのかかわり	お散歩マップを周辺工事の状況に応じて随時再考してきた。	A
研修と研究	外部講師陣による園内研修に加え、リモート研修の機会も増やすことができた。	A

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

A	日々の職員ミーティングや検討会を有効に活用し、参加できなかった職員への連絡報告が的確に行われるように職員一人ひとりの意識が変化してきた。保育に於いても小さな困り事の共有、検討・工夫・解消へと導かれた。
---	--

◎「3・4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
---	-----------

B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

5. 2022年度 今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の計画性	子ども一人ひとりの成長に合わせて、長期的な見通しをもって保育内容を工夫する。
保育のあり方 幼児への対応	感染症対策が緩和される中で子どもたちが健康的に過ごせる保育を提供する。
資質や能力・適正	保育理念をよく味わい自己研鑽に励む。
保護者への対応	ホームページや掲示を活用するなど、園での保育教育内容を保護者に知ってもらえるよう工夫する。
地域へのかかわり	関係機関との関係性を強化する。
研修と研究	リモート研修や外部研修のほか、園内でも他職員の保育を参観できるように環境を整える。

6. 2022年度 学校関係者評価

学園の保育理念でもある園生活の全局面を通して、心と体の健やかな発達を助けるカリキュラムについて高く評価していただき、職員も子どもの育ちに適した環境の中で保育を行うことの大切さをあらためて感じた。
新型コロナウイルス感染拡大が収まらない中、制限がありつつも大きな行事も感染対策を工夫して実施したことで、子どもたちの成長の姿や友だちとの関りを保護者にも見ていただく機会を得られた。
外部講師の先生方とも協力して、より専門性の高い内容となったことで、あそびを通して子どもたちが楽しめる保育となった。
毎日の健康観察表など感染症対策として保護者をお願いしていること以上に、各ご家庭に於いて新型コロナウイルス感染症に対して家族みんなが感染しないように徹底したご尽力、ご協力をいただき、さらに新園舎の通気性のよい構造に加え毎日の消毒等感染対策を先生たちの尽力により感染者数も少なく過ごせることができた。
すべては子どもたちの笑顔のためにと頑張っているお父さんの会”DADDY-A”が主催する活動も制限がある中で、運動会での応援や作品展での巨大迷路は子どもたちを大いに楽しませた。
感染症対策の制限が緩和された場合に、今年度のように対策をとりつつもより丁寧な子どもの成長にあわせた保育環境を整えていくことが如何に継続されるかが課題となる。

7. 2022年度 財務状況

公認会計士による監査が予定されています。